

2013 図書館便り

第四巻 第二号

発行日 2013年7月30日

巻頭言

館長 澤田篤子

目次:

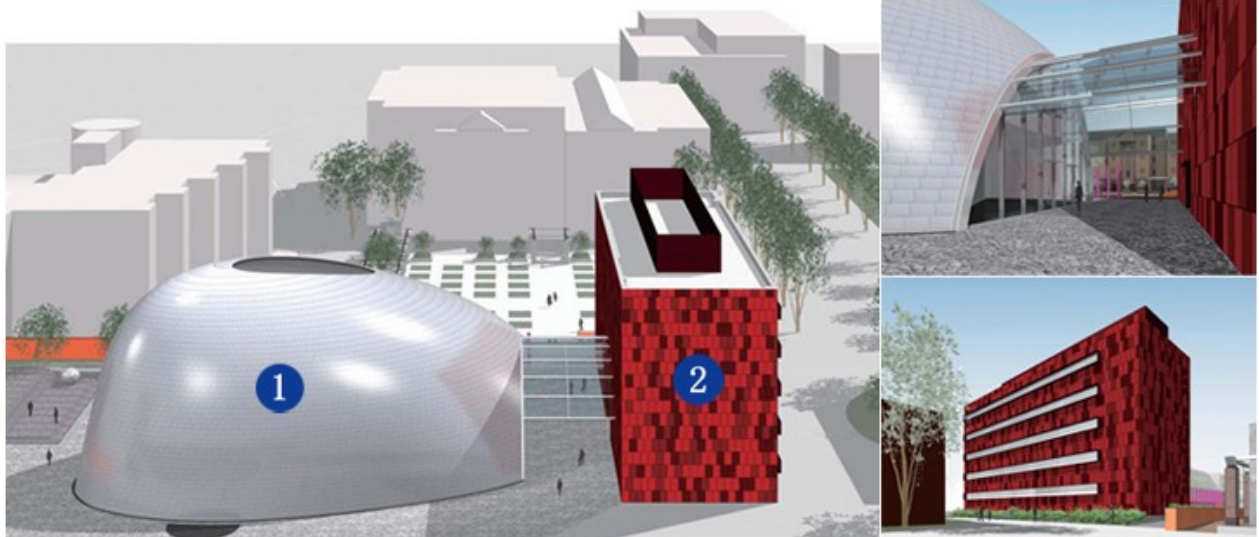
巻頭言	1
私の推薦図書 石井 喜久子先生	2
私の推薦図書 森重行敏先生	2
レコメンドコーナー について	3
図書館員による推薦図書	4
図書館に対する 投書へのご回答	5
図書館からのお知らせ	6

図書館の新たな「質の追求・向上」を目指して4年目を迎えた今年、後期より新校舎e-キューブとシルバーマウンテンがオープンしますが、これに連動して図書館も少し様変わりを行います。

図書館は、従来の図書や楽譜、視聴覚資料、電子データなどを収集・提供する知識の宝庫としての役割に加え、今日の情報化社会にあつて、利用者の学習や情報収集への支援を行うことも求められ、本学ではそのひとつとして昨年度より図書館サポーターを発足いたしました。また利用者が仲間と共に主体的に学習ができる環境を提供する「ラーニング・コモンズ Learning Commons」が日本の図書館にも浸透しはじめ、本学でも導入を検討し、後期より始動する予定です。

この「ラーニング・コモンズ」は「共に学ぶ共有の場」を意味し（commonsは「共有地・公有地」の意味）、アメリカで生まれ、日本でも実施されるようになりました。図書館という知の宝庫の中で、情報機器なども活用しつつ、一人で考えるのみならず、何人かで課題について探究し、意見を述べあい、学びを共有していく、それが「ラーニング・コモンズ」です。

図書館は、所蔵されている図書などの「モノ」と利用者たる「ヒト」との仲立ちの場にとどまらず、「モノ」を介した「ヒト」と「ヒト」との知の交流の場としての役割も担うようになった今日、図書館をより多面的にアクティブに利用していただくことを、館員一同、願っております。



＜私の推薦図書＞

【石井 喜久子先生(打楽器コース)】

【図書】

書名：『サウンド・エデュケーション』

著者：R・マリー・シェーファー

訳者：鳥越けい子、若尾裕、今田匡彦

出版：春秋社(2009年)

定価：1,890円

ISBN-10: 4393935439

ISBN-13: 978-4393935439

朝起きて、最初に聴いた音は何だろう？
皆さんはそんなことを考えたことがあるでしょうか。それは鳥のさえずり？目覚まし時計？思い出せないひともいるでしょう。私たち音楽家は、毎日音に向きあっているはずなのに、案外、この世界が音に満ち溢れていることを忘れていたのかもしれない。試しに、目を閉じて耳を澄ませば…聞き過ぎていた音が聴こえてきませんか？この本には、そんな音に対する感受性や想像力を育てる、誰もがすぐにできる魅力的な100の課題がまっています。

著者のマリー・シェーファーはカナダを代表する作曲家で、サウンドスケープの提唱者。彼の作品からは、聴くことがかけがいのない行為であることが伝わってきます。打楽器の世界では、楽器から石ころまでありとあ

らゆる音を扱います。この本を通して、きっと日々の聴き方と音楽が繋がっていることがストンと実感できるでしょう。打楽器だけでなく、音楽を学ぶすべてのひとたちに、音楽の原点である“耳”を再発見させてくれる一冊です。

最後にエピソードをひとつ。とある楽器の生徒さん、着実に上達しているのに「だんだんへたになっている」と悩んでいました。しかし、それを知った先生は満足な様子。なぜなら…生徒さんが自分の出している音をよく聴けるようになって、知らないうちに欠点が自分でわかるようになっていたのです。

大事なことは耳を開くこと。すべてはそこから始まるのです。

＜私の推薦図書＞

【森重行敏先生(現代邦楽コース)】

【図書】

書名：『幕末鼓笛隊・
土着化する西洋音楽』

著者：奥中康人著

出版：大阪大学出版会
(阪大リーブル037、2012年)

定価：1,995円

ISBN 978-4872593198C1373

明治維新に関連するドラマで、官軍の行進シーンに流れる笛や太鼓の音を聴いたことがあるだろう。幕末、軍隊訓練の一環としてすでに洋式の軍楽が導入されていたことが知られている。信長や秀吉の頃のキリタン音楽を除けば、いわば日本最初の洋楽がこの鼓笛隊である。当時のメロディ譜は失われてしまったものの、各地に郷土芸能のような形に変化したものがいくつか残されている。副題にもあるように、メロディやリズムが土地ごとに変容しているところに著者は注目している。洋の東西を問わず古典音楽は「正しい」継承を理想とすることに違いは無いが、本来音楽は変化してい

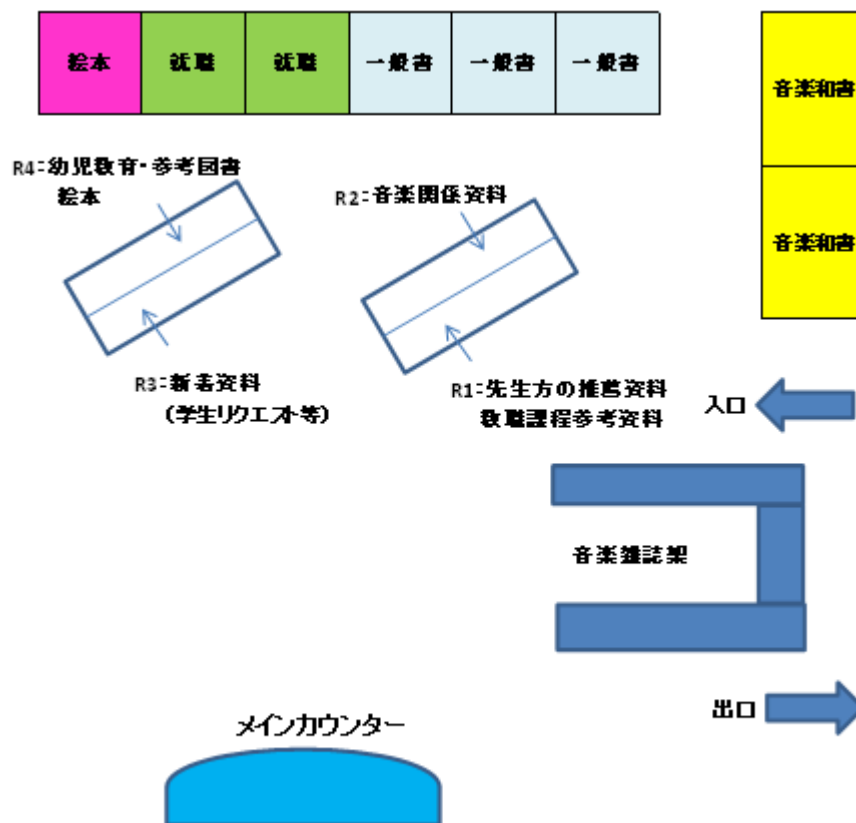
くものである。本書の報告の中でも、ある地方の演奏で横笛をリコーダーで代用した例があったり、反対に本来のスネアドラムから和風の締太鼓にいわば先祖帰り(?)したにもかかわらず、バチの持ち方は洋式を守っているなどという不思議な例が紹介されている。笛のメロディもさまざまで、どれが「正しい」のかはもはや不明である。しかし外来文化が定着するというのは、実はその土地に合わせて変容していくことでもあろう。西洋音楽が学校で教えられてすでに130年余り。洋楽がいかに我々のものになったかの視点も変化していくべきなのかもしれない。

【レコメンドコーナーについて】

皆さんは、エントランスから入ってすぐ右にある“レコメンドコーナー”に展示されている書籍を見たことがありますか？ 図書館には6万冊を超える図書が所蔵されていますが、先生方の推薦書、話題の新刊書、音楽和書などがすぐ手に取って見られるよう、展示しています。

どんな本を読めばいいのかわからない、話題になっている本を読みたい、などといった場合に、気軽に利用してみてください。
レコメンドコーナーは下記のようなレイアウトとなっています。

＜レコメンドコーナーのレイアウト＞



【図書館員による推薦図書】

書名:『COMMONS: Schola 音楽の百科事典』(坂本龍一監修)

出版:エイベックス・マーケティング

バーコード番号:J0771292(第一巻:J.S.Bach) ほか

NHK教育番組『schola 坂本龍一 音楽の学校』の内容をまとめた、CD付き書籍シリーズ(全30巻)。

坂本龍一氏による前文を引用すると、

“スコラ(schola)とはラテン語で「学校」という意味です。(中略)

今私たちは、ありとあらゆる音楽が無差別に並列された混沌の前に立たされることになりました。そのような状況の中でscholaが企てるのは、ほどよい一般性をもった文化の教科書を作り出すことではなく、圧倒的に突出した音楽を拾いつつ、そこから普遍性をもったスタンダードを作り出そうという、極めて野心的なプロジェクトなのです。”

バッハ、ベートーベンといったクラシックの巨匠はもちろん、ジャズ、ロック、映画音楽、アフリカンなど現在進行形の音楽をも独自の視点で分析している。本学図書館では現在発刊されている12巻すべてを所蔵。

書名:『小澤征爾さんと、音楽について話をする』

著者:小澤征爾×村上春樹

出版:新潮社

バーコード番号:J048121Z

自称“クラシック音楽とジャズの大ファン”である村上春樹氏がマエストロ・小澤征爾氏と行った6回の対話記録。

村上氏によれば、二人の共通点は仕事に喜びを感じていること、今でも若いころと同じハングリーな心を持ち続けていること、頑固なこと。そして違う点は……。

軽やかな対話の中に、“はっとさせられる切迫した煌めきが、何気なくちりばめられて”おり、“こっそりとした響きをも聞き逃せない”音楽を聴いているようだ、とも。

“良き音楽は愛と同じように、いくらたくさんあっても、多すぎるということはない。”という、音楽に対する限りない憧憬と感謝にあふれている対話集。

【図書館に対する投書へのご回答】

皆さんから図書館宛てに頂いた投書に対するご回答です。

今後とも何なりとご意見、ご要望をお寄せください。

<ご意見・ご要望>

- 以前、Sibeliusの導入をお願いしていた者です。
おかげで学内の作業がやりやすくなり、勉学にも
良い結果が出せるようになりました。
ありがとうございました。

<ご回答>

- 図書館の利便性が向上して良かったです。
ご意見ありがとうございました。

<ご意見・ご要望>

- 資料がとても充実していて良いのですが、BDとDVDの貸出を
実施してほしいです。BDはシアタールームで一人で見るのは
少し気を使いますし、自宅で見た方が効率的で良いと思います。
リスクはCDの貸出とあまり変わらないと思いますし、是非ご検討
ください。

<ご回答>

- 本学図書館でDVD等の映像著作物の貸出を実施していない
のは、著作権法の規定に基づく措置です。
すなわち、DVDなどの映像著作物は、著作権法により、
図書館においても権利者の許諾なしには館外貸出は認めら
れておりません。(著作権法第26条)
一方、図書やCDなど、映像以外の著作物は上記と異なり、
権利者の許諾なしに図書館による貸出が可能となっています。
(著作権法第38条)
本学図書館では上記規定に基づき、DVDなどの映像著作物
を貸出していないのです。
なお、権利者の許諾を得たもの、つまり著作権処理済の映像
著作物については貸出可能ですが、高価であること、種類が
少ないこと、などから、本学図書館ではわずかしこ導入しており
ません。
徐々に増やしていきたいと考えておりますので、ご理解のほど、
よろしく申し上げます。

【図書館からのお知らせ】

1. グループ学習室の増設について

図書館では9月より、2階のメディアセンター事務室移転に伴って空きスペースとなる3220号室を、新たにグループ学習室としてリニューアルします。同室はパソコン、ホワイトボードなどを備え、仲間同士で議論しながらの学習が可能です。すなわち、巻頭言で澤田先生が言及された、“ラーニング・commons”の基本機能を付加したグループ学習室となります。利用に際しては特に手続きは必要なく、空席があれば自由に利用可能です。

また、学習の際に楽譜や図書の検索支援が必要となった場合、図書館サポーターもしくは職員がお手伝いしますので、気軽に声をかけてください。新たな機能をもつグループ学習室を活用し、皆さんの学習がより充実したものとなるよう、職員一同心より願っております。

2. AVルーム貸出方法の変更について

平成25年4月より、AVルームの貸出方法を変更しました。従来は時限毎(9:00～10:30、10:40～12:10など)の貸出でしたが、アンケート結果を考慮し、受付時点から2時間、に変更しました。例えば10:00に申し込むと、従来だと10:30に一旦終了ですが、新方式ですと10:00～12:00まで、時限に関係なく2時間の利用が可能となります。待っているグループがいなければ、更に1時間の延長が可能です。なお、延長の場合は、受付から2時間経過の時点で、カウンターにその旨申し出て下さい。

3. iMac 12台更新について

利用者の方の利便性を図るため、2FのiMac 12台を最新の機種に入れ替えました。OS X v10.8 Mountain Lion、iTunes 11.0、Microsoft Office for Mac 2011 が利用可能です。

発行： 洗足学園音楽大学附属図書館
洗足こども短期大学附属図書館
発行日：2013年7月30日